

武蔵野徳洲苑 施設長たより 令和4年6月



口腔ケアについて

武蔵野徳洲苑 施設長 栗田 明

口には噛む、呑みこむ、味を感じる、舌触りを感じるなどの作用がありますが、加齢によりこれらの作用は減退します。この状態をオ-ラルフレイルと呼びます。当施設の平均年齢は約 89 歳ですので大きなテーマです。

しっかり食べ物を噛んだり、呑みこみができなくなると食事が進まなくなり低栄養になり、上気道感染から嚥下性肺炎をおこしやすくなります。下図に示すように心臓病や脳血管障害や糖尿病が悪化することも報告されています。

1989 年に始まった 8020 運動は 80 歳まで 20 本の歯を残そうという運動であり一定の効果が出ています。オ-ラルフレイルを見逃さないためにはフレイルのサインを見逃さないことが肝心です。すなわち、①硬いものが食べにくくなった、②お茶や、汁物でむせることがある、③食べこぼす、④口が乾くなどです。虫歯や歯周炎に留意し歯科の先生の視察をうけるように心がけましょう。当施設では歯科医師に毎月診療を依頼して入所者の口腔ケアに努めていますので、ご安心ください。

歯周病と様々な病気とのかかわり

